

シンポジウム | 特別講演

学術シンポジウム

口腔機能低下症のアウトカムと評価基準の再評価

座長:水口 俊介(東京医科歯科大学大学院高齢者歯科学分野)

Sat. Jun 23, 2018 2:10 PM - 4:00 PM 第1会場 (8F 大ホール)

【略歴】

1983年 東京医科歯科大学歯学部歯学科卒業
1987年 同大学大学院歯学研究科修了・歯学博士
1989年 同大学歯学部高齢者歯科学講座助手
2001年 同大学大学院口腔老化制御学分野講師
ロマリング大学歯学部客員教授
2006年 同大学大学院高齢者歯科学分野助教授
2007年 同大学大学院全部床義歯補綴学分野教授
2012年 同大学大学院高齢者歯科学分野教授
日本咀嚼学会理事長
日本義歯ケア学会理事長
日本老年歯科医学会常任理事, 専門医・指導医
日本補綴歯科学会理事, 専門医・指導医

【抄録】

2年前に発表された「口腔機能低下症」は本年の診療報酬改定に組み入れられた。学会見解論文作成時の喧々諤々の議論から、つい先日Gerodontology acceptまでであったという間に2年が経過した。しかしながらその間にもさまざまなエビデンスが追加され議論が継続している。

まず基調講演として東京大学高齢社会研究所教授の飯島勝矢先生に、昨年11月に柏スタディーから発表されたオーラルフレイルとMortalityに関する研究を中心に、今後全身と口腔に関する研究が地域包括ケアシステムの中でどのように生かされていくかを論じていただく。次に上田貴之先生に、これまでの報告を基に各下位項目の検査値のカットオフ値について再検討していただく。津賀一弘先生には、口腔内で最も重要なパフォーマンスを発揮する舌についての最新の研究結果から舌圧の再評価について解説いただく。そして最後に松尾浩一郎先生より今後の方向性について委員会からの提案を示していただき、活発な議論の資としたい。

[S6-4]口腔機能低下症のあり方と方向性

○松尾 浩一郎¹ (1. 藤田保健衛生大学医学部歯科・口腔外科)

【略歴】

1999年 東京医科歯科大学歯学部卒業
1999年 同 大学院高齢者歯科学分野入局
2002年 ジョンスホプキンス大学医学部リハビリテーション講座研究員
2005年 ジョンスホプキンス大学医学部リハビリテーション講座講師
2008年 松本歯科大学障害者歯科学講座准教授
2013年 藤田保健衛生大学医学部歯科教授
2018年 藤田保健衛生大学医学部歯科・口腔外科学講座教授
日本老年歯科医学会 指導医, 理事
日本障害者歯科学会 認定医, 理事
Dysphagia Research Society 理事
International association of dentistry and oral health 評議員

高齢者では、加齢だけでなく、疾患や障害などさまざまな要因によって、本人が気づかぬうちに口腔機能が徐々に低下していきます。この高齢者における口腔機能の低下は、栄養やフレイル、要介護との関連性も示唆されています。今までは、その病態を適切に表現する歯科傷病名がありませんでした。しかし、2016年に日本老年歯科医学会より「口腔機能低下症」が提唱され、2018年に傷病名として保険収載され、口腔機能低下症の検査や管理にも診療報酬が付与されました。今後は、早期の口腔機能低下症の診断および早期対応により、口腔機能の維持向上効果があるか、それに伴う栄養改善やフレイル予防があるかなどの介入効果についてのエビデンスが必要になってくると思います。私からは、口腔機能低下症のあり方と今後の方向性について、学術委員会からの提案を示し、参加される皆さまと熱いディスカッションをしていきたいと考えています。